

基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み	校区社協としての取り組み				
互いに話し合える豊かな住み良い 吉松校区	高齢者、障がい児・者にやさしいまち	高齢者、障がい児・者について	高齢者の孤立防止と社会参加	・人との接触を好まない高齢者への声かけが難しい	・地域全体で見守りについて意識のを向上を図る ・自治会長と民生委員で要配慮者の情報を共有する	・要配慮者への回覧板を活用した声かけ推進 ・見守りを目的とした自治会長と民生委員の情報交換会の開催				
			高齢者の体力維持と健康問題	・外出機会が減少し体力維持が難しい ・生活意欲が向上するような趣味や楽しみを持たない高齢者が多い	・地域公民館を利用したふれあい・いきいきサロンの充実を図る ・地域行事、ふれあい・いきいきサロンへの参加呼びかけ ・吉松校区ポッチャ交流会に向けた練習会を地域の集いの場にする	・ふれあい・いきいきサロンリーダー研修会の開催 ・地域行事やふれあい・いきいきサロンの活動について社協だよりを活用した情報提供 ・各町内でポッチャを通した世代間交流の推進				
			認知症高齢者への理解	・認知症高齢者に関する情報把握が難しい ・認知症高齢者への接し方が分からない	・地域包括支援センターやケアマネージャー等と情報共有できる関係づくり ・認知症について勉強会を開催し知識を向上させる	・地域包括支援センターと連携し介護保険制度についての学習会を開催（関係機関との交流を含む） ・各町内での認知症サポーター養成講座開催の推進				
			高齢者を取り巻く状況	・スーパーなどの店が遠く買い物が不便 ・詐欺などの犯罪被害が増加している	・移動販売や宅配サービスの情報を収集する ・防犯について最新の手口を学ぶと共に住民へ注意喚起を行う	・社協だよりを活用した移動販売や宅配サービスの情報提供 ・自治協議会、関係機関と連携し各町内で防犯についての出前講座を推進				
			障がい児・者に対する理解	・障がい者に対する知識が乏しく、接し方がわからない ・個人情報の問題があり情報把握が難しい	・障がい者について勉強会を開催し知識を向上させる ・ポッチャを通してスペシャルオリンピックス参加者との交流を図る	・障がい者相談支援センターと連携した学習会の開催 ・校区内の企業・事業所からの支援を活用し障がい者、高齢者、子ども、子育て世代が交流できる吉松校区ポッチャ交流大会の開催				
			子どもの成長を見守り育てるまち	子ども、子育てについて	子ども、子育て家庭の孤立と見守り	・子どもの遊び場がない（少ない） ・子育て家庭に関する情報把握が難しい ・虐待、引きこもり、いじめ、不登校など外部から見つけることが難しい	・子どもの遊び場として地域コミュニティセンターを活用する ・民生委員・児童委員が実施する挨拶運動や学校行事など積極的に学校と関わりを持つ ・学校行事の開催を通して支援が必要な児童の把握に努める	・吉松小学校の児童を対象とした寺子屋塾への協力 ・あいさつ運動や学校行事を通して学校、PTAと連携できる関係づくり ・吉松小学校「つなしの会」開催の支援		
					情報が速やかに行き渡る体制づくり	災害・防災について	平常時における災害の備えと体制づくり	・家庭内の備蓄食料の確保ができていない ・災害の種類（大雨、台風、地震等）に応じた避難方法が分からない	・災害時における備蓄食料の必要性と啓発活動を行う ・ハザードマップ、防災マニュアルを確認する	・社協だよりを活用した備蓄食料についての啓発や情報提供 ・自治会、校区防災連絡会との連携
							災害時における避難	・隣近所の助け合いが重要だと思いがなにをしていいかわからない ・災害時に要配慮者の支援ができるか不安がある	・要配慮者の把握、小組合（班・組）で支援できる人を決めておく ・地区ごとに要配慮者についての情報を共有する	・「災害時要援護者避難支援制度」の活用 ・要配慮者について自治会長と民生委員の情報交換会の開催
			地域一丸となり支えあうまちづくり	暮らしについて	ゴミ出しに関すること	・高齢や障がいによりゴミ出しが困難な世帯がある	・ゴミ出しに関する支援について情報を収集する	・市の制度や福祉サービス等を把握し関係機関と連携		
					校区内における各種団体の連携	・地域役員のなり手がいない ・地域行事が少なくなったように感じる	・地域役員の負担を軽減し、誰でも役員になれる体制を整える ・校区内の各種団体が連携し情報発信を強化する	・若い世代を中心とした人材確保と役員経験者の協力について自治協議会と連携		